



会議レポート

JSST2018 参加報告

2018年9月18日から20日の3日間にわたり、室蘭工業大学においてJSST2018 (The 37th JSST Annual International Conference on Simulation Technology) が開催された(図-1)。本会議は日本シミュレーション学会が主催する国際会議であり、同学会の年会という位置付けとなる。会期直前となる9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震の影響により、道内で開催中または開催予定の学術集会が多数中止となる中、震源からそれほど遠くない室蘭を会場とする本会議についても開催が危ぶまれた。しかし、大会事務局、会場関係者をはじめとする各位のご尽力により当初の予定通り開催されることが発表された。この一報が入ったのは正に会期4日前となる9月14日であり、ライフライン、交通手段、宿泊と多岐に渡る諸問題、特に大会参加者の安全を最大限考慮しなければならない状況下での難しい判断を迫られる中、開催を決定した事務局の英断に対してこの場をお借りして敬意を表したい。

本年度は、4つのシンポジウム、7つのオーガナイズドセッション、1つのレギュラーセッションのほか、日本語での発表も可能な学生ポスターセッションからなるプログラム構成となった。シンポジウムでは非線形問題、光渦場解析、形状最適化など、またオーガナイズドセッションでは数値計算、計算電磁気、通信ネットワーク、ロボティクス、メカトロニクス、折り紙(幾何学と

して研究が行われており、シミュレーションソフトもあるとのこと)など多岐にわたるテーマでの講演が行われ、連日活発な議論が交わされた(図-2)。学生セッションではポスターによる発表だけでなく、持ち時間1分のショットガンセッションも併せて行われた。学会名の通りシミュレーションが主体である本会議において、シミュレーションにより得られたデータの可視化を研究対象としている筆者は、レギュラーセッション(講演数4件)にてヘッドマウントディスプレイを用いたデータ可視化に関する発表を行った。

特別講演では、五十嵐一教授(北海道大学)によるトポロジ最適化と深層学習の共進化、尾松孝茂教授(千葉大学)による軌道角運動量を有するトポロジカル光波、渡邊浩太准教授(室蘭工業大学)による電磁機器のトポロジ最適化について、各先生から貴重なお話を伺うことができた。

懇親会では、学会賞受賞者の表彰が行われた。学会賞は論文賞、ベストオーサー賞、Best Paper Award、研究賞、奨励賞の5部門で構成され、シミュレーション技術の発展・普及に寄与する優れた研究論文および研究発表に対して贈られる賞である。日本シミュレーション学会の発行する和文論文誌、英文論文誌、学会誌に昨年度掲載された論文および記事から最も優秀であった各1編に対し、それぞれ論文賞、Best Paper Award、ベストオーサー賞が贈られた。また、昨年開催されたJSST2017の全講演から研究賞(1件)および奨励賞(3件)が選定され受賞者への表彰が行われた。

当初懸念された、地震に起因する講演キャンセルについても特に発生することなく、総講演数146、総参加者数169名と盛況のうちに無事閉会を迎えることができた。次回となるJSST2019については2019年11月5日から7日までの会期にて、宮崎での開催が決定している。読者のみなさまからの多数の投稿を期待しつつ、本報告を終わらせていただきたいと思います。

(川原慎太郎/海洋研究開発機構)



図-1 講演会場外観。4階建てのように見えるが、地下1階+地上3階とのことである。1階と2階を講演会場とし、協賛企業による技術展示も行われた。

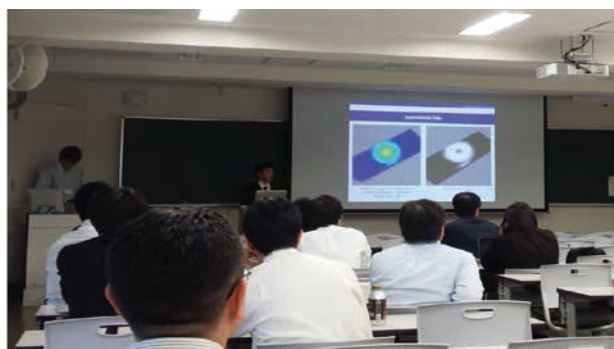


図-2 セッションの様子(筆者の講演ではありません)